

小学校国語

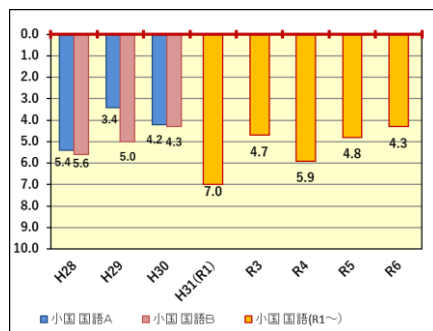
平均正答率は66%である。「情報の扱い方に関する事項」では、情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方について、概ね理解できている。一方、「話すこと・聞くこと」では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。この課題に対して、自分の考えを話す場面では、自分の考えが伝わるように、相手を意識し、資料を示しながら話すなど、表現を工夫する指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

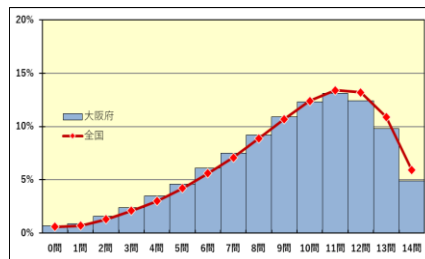
平均正答数	大阪府	9.2 問 / 14 問
	全国	9.5 問 / 14 問
平均正答率	大阪府	66 %
	全国	67.7 %
無解答率	大阪府	4.3 %
	全国	4.2 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

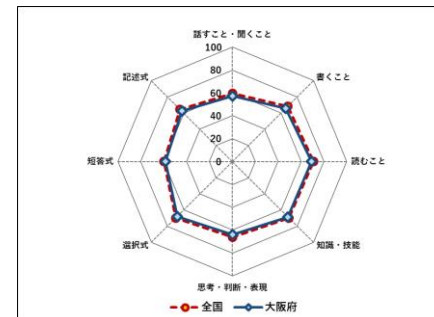


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「記述式」「話すこと・聞くこと」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

【成果】

- ◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことは概ねできている。([高山さんのメモ]の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する。2ー(2))
- ◇目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することは概ねできている。(高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する2ー(1))
- ◇話し言葉と書き言葉との違いに気付くことは概ねできている。(オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する1二(1))

【課題】

- ◆資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題がある。(オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する1二(2))
- ◆目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。([高山さんの文章]の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く。2二)

各領域における授業づくりのポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、話す際の材料を集め、分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにする。
- 音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに、資料を使いながら話すようにする。また、聞き手の興味・関心や情報量などを予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定するようにする。

【書くこと】

- 伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする。
- 内容に注目して、文章全体に一貫性があるかを確認したり、文末表現に注目して、事実と考えを適切に区別しているか、事実と考えを混同して書いていないかを確認したりする場面を設定するようにする。

【読むこと】

- 登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方を総合して判断できるようにする。
- 「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことで、物語の全体像を具体的に想像できるようにする。

中学校国語

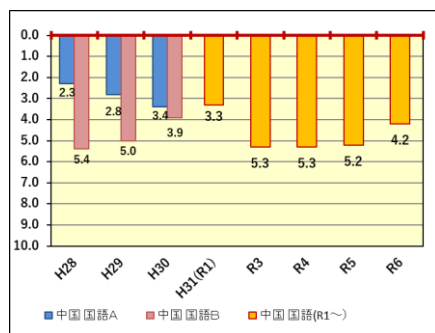
平均正答率は57%である。「知識及び技能」については、すべての事項について概ね全国並みの平均正答率となっている。一方、「読むこと」では、文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題が見られる。この課題に対して、図表などを含む文章を読むときは、示されている図表などが文章のどの部分と関連しているのかを確認し、筆者が図表などを用いた意図を考えるなど引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

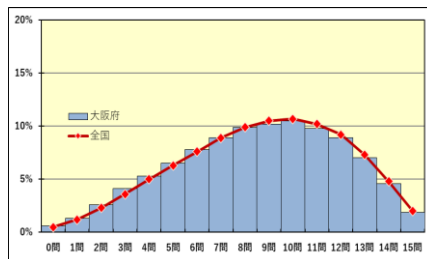
平均正答数	大阪府	8.6 問 / 15 問
	全国	8.7 問 / 15 問
平均正答率	大阪府	57 %
	全国	58.1 %
無解答率	大阪府	4.2 %
	全国	3.9 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

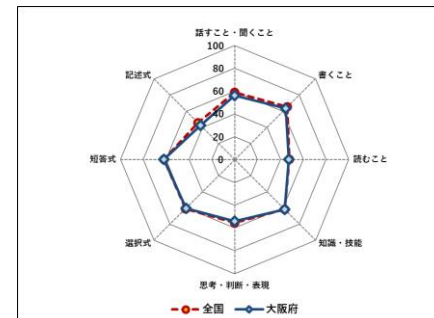


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、10問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「記述式」「読むこと」「思考・判断・表現」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

【成果】

- ◇ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解することはできている。(本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する [2 一])
- ◇ 適切なものを物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する [3 一]
- ◇ 行書の特徴を理解することはできている。(行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する [4 三])

【課題】

- ◆ 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることに課題がある。(話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く [1四])
- ◆ 文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。(本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する [2 一])
- ◆ 表現の効果を考え、描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することに課題がある。(表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する [3 四])

各領域における授業づくりのポイント

【話すこと・聞くこと】

- 話し合いを通じて自分の考えをまとめる際には、「何について」「どのような目的で」話し合っているかを意識できるようにする。
- 話し合いでは、話題から逸れずに目的を常に意識して発言を結びつけられるようにする。

【書くこと】

- 自分の考えが伝わるように文章を書くために、「用いた語句や表現がどのような効果があるのか」や「読み手に伝えたいことを明確にして、表現が工夫できているか」を確かめられるようにする。
- 書いた文章を互いに読み合う際に表現の効果について確認できるように、よい点について伝え合うようにする。

【読むこと】

- 説明的文章を読む際には、文章と図表などを結び付け、図表などが文章のどの部分と関連しているのかや効果を確認したり、書き手の意図を正確に読み取ったりすることを意識させる。

小学校算数

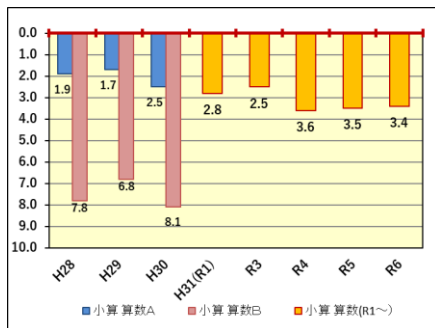
平均正答率は63%である。「数量の関係を問題場面どおりに、□などの記号を用いて式に表すこと」や「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ること」はできている。一方で、「図形を構成する要素を見だし、それらを活用して体積を求めること」や「二つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察すること」などの課題に対する指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

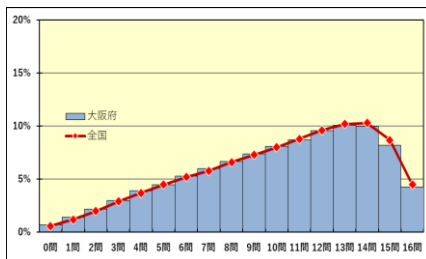
平均正答数	大阪府	10.0 問 / 16 問
	全国	10.1 問 / 16 問
平均正答率	大阪府	63 %
	全国	63.4 %
無解答率	大阪府	3.4 %
	全国	3.4 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

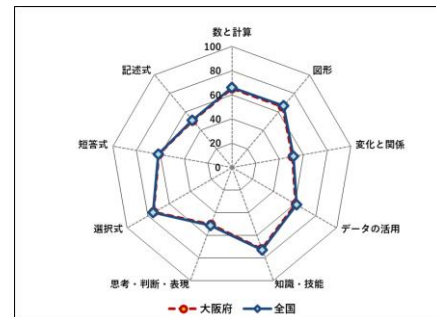


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「変化と関係」「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

【成果】

- ◇数量の関係を、□を用いた式に表すことはできている。
(はじめに持っていた折り紙の枚数を□枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ。1 (2))
- ◇円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることはできている。
(円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く。5 (1))

【課題】

- ◆球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。
(直径22 cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く。3 (3))
- ◆道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。
(家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く。4 (3))
- ◆折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述することに課題がある。
(折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く。5 (3))

各領域における授業づくりのポイント

【図形】

- 図形を構成する要素に着目して、見いだした図形の意味や性質を基に、筋道を立てて、必要な情報を判断し、問題を解決できるようにする。

【変化と関係】

- 時間が等しく道のりが異なる場合、道のりが等しく時間が異なる場合、道のりと時間が異なる場合を提示して速さを比べる活動など、異種の二つの量の割合として捉えられる数量を比較する際に、場面に応じて処理の仕方を考えることができるようにする。

【データの活用】

- 日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにする。

【全領域】

- 必要な根拠を明確にして、筋道を立てて説明するために、論理的に自分の考えを持つことができるようにする。

中学校数学

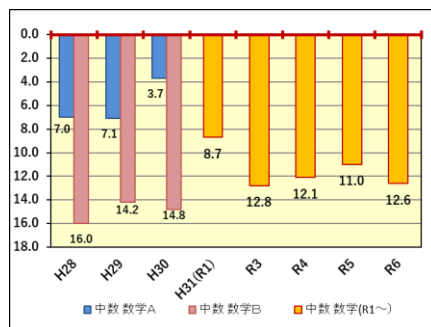
平均正答率は51%である。「一次関数のグラフの傾きやy軸との交点、2つのグラフの交点の意味を事象に即して解釈すること」や、「与えられたデータから代表値を求めること」はできている。一方で、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を関数を活用して説明すること」、「データの分布の傾向を比較して読み取り、ある事象が成り立つと判断した理由を説明すること」について、引き続き課題が見られ、更なる指導の充実が求められる。

正答率・無解答率の状況

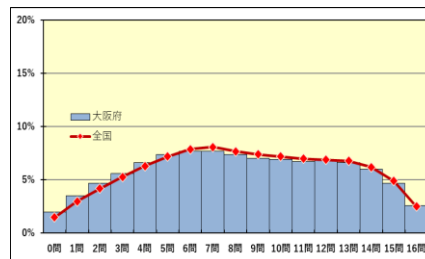
平均正答率	大阪府	8.2 問 / 16 問
	全国	8.4 問 / 16 問
平均正答率	大阪府	51 %
	全国	52.5 %
無解答率	大阪府	12.6 %
	全国	11.3 %

* 文部科学省は都道府県の平均正答率を整数値で公表しています。

無解答率の推移の状況

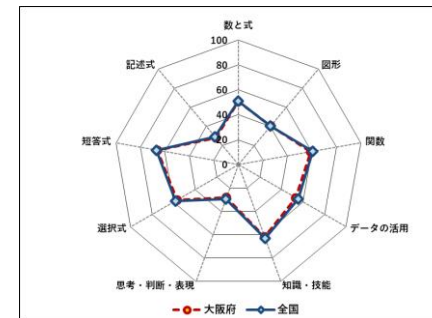


正答数分布の状況



大阪府の正答数分布の状況は、6問～7問を頂上として頂上が平たくなった高原状の分布となっており、全体として中央よりやや左側に位置している。

領域・観点・問題形式別の状況



レーダーチャートの描くラインは、「図形」・「データの活用」・「記述式」・「思考・判断・表現」でやや低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

【成果】

- ◇与えられたデータから最頻値を求めることはできている。(7)(1))
- ◇グラフの傾きや交点の意味、グラフとy軸との交点の意味について、事象に即して解釈することはできている。(8)(1)(3))

【課題】

- ◆複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(データの分布から読み取れることを主張する理由を、五つの箱ひげ図を比較して説明する。7)(2))
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(18Lの灯油を使い切るまでの、「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いが何時間になるかを求める方法を説明する。8)(2))

各領域における授業づくりのポイント

【図形】

- 筋道を立てて考え、証明できるようにするために、それまでの基本的な平面図形の性質の単元においても、「根拠」→「成り立つ事象」の組み合わせを大切にしながら問題解決の過程を根拠に基づいて論理的に説明できるようにする。

【関数】

- 日常生活や社会の事象における課題場面を設定し、関数を活用して課題解決できるようにする。
- 課題解決の見通しを持ち、「何を」「どのように」使って課題解決をめざすのか、その過程を論理的に表現できるようにする。

【データの活用】

- 目的に応じてデータを収集して分析し、その傾向を読み取って批判的に考察し判断することを通して、統計的に問題解決することができるようにする。
- 子どもたちが効率よくデータを整理して、得られた結果を考察する時間を十分に確保するために、1人1台端末を効果的に活用できるようにする。